

# フィッシャリーナとのつながり

北2号伊平線（幅員19m）



## マスタープラン案イメージ

- ・フィッシャリーナとのつながりは海を感じさせるヤシの並木道  
その沿線におしゃれな店(ブティック、美容室、カフェなど)

## 現況写真



フィッシャリーナから



ヤエヤマヤシ

## 現状

- ・街の入口となる重要な場所
- ・長さは100m余。幅員18m。
- ・街区の長さが短く交差点があるため停車帯がとれない。車道+路肩+歩道の断面構成。

## 課題及び提案

- ・海を感じさせる並木として、見通しが良く明るいヤエヤマヤシを植える。連続性を演出するため、3連で植える。
- ・フィッシャリーナとの連続性も考慮し、歩道部はベージュからブラウン系レンガ舗装が望ましい。
- ・地権者によるまちづくりグループの立ち上げが必要になる。
- ・同じ気持ち(感性)の地権者が集まって共同で敷地を活用することも魅力的。
- ・地権者と話し合いながら、セットバック、外壁の色、駐車場の取り方などの建築施設の作り方を検討する必要がある。
- ・地権者の勉強会、事例視察も必要ではないか。
- ・協議会として、街のイメージを地権者に伝えて行くことが重要。
- ・この地区では小規模敷地については共同使用を促す必要がある。

## フィッシャリーナとのつなぎ部分の整備イメージ（案）

### ●海を感じさせる並木

- ・見通しが良く明るいヤエヤマヤシの並木
- ・3連で植えて、緑の連続性を演出



作画 小野啓子

### ●歩道の作り方

- ・ベージュからブラウン系のレンガ舗装が望ましい

- まちづくりグループによる詳細計画の立案
- ・地権者によるまちづくりグループを立ち上げ、商業施設の作り方（セットバック、外壁の色、駐車場の取り方等）を検討する必要がある



### イメージ写真

出典：新たな都市再生の展開-街なか再生海外事例研究／アメリカ西海岸編（カリフォルニア州）、財団法人区画整理促進機構、街なか再生全国支援センター、平成14年